
■ さろん | Mail News 2017/10/15 | #101 ■ 【読み物号】

ご案内不要の方はお手数ですがこのメールにそのままご返信ください。

哲学カフェ及び関連イベント情報をお送りします。みなさんの興味・関心の一助としていただくとともに、今後とも「さろん」を応援いただければ幸いです。

なお、このメールニュース掲載のコラム等は執筆者の個人的な考えを表したものです。会や専門領域における統一見解や事象を扱っているものではありません。予めご了承ください。

=====Vol.101 2017年10月15日(日)=====

さ | ろ | ん |
└ ─ ─ ─

M | a | i | l | N | e | w | s |
└ ─ ─ ─ ─ ─ ─ ─ ─ ─

<http://salon-public.com/>

(バックナンバーはHPからご覧いただけます)

<https://twitter.com/salontetsugaku>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>
=====

>> さろんブース出展 2017.10.22 哲学プラクティス連絡会 <<

今月10月21日-22日に開催される第3回哲学プラクティス連絡会、ことしのさろんは、10/22(日)にブース出展を行います。

そのほかにも興味深いプログラムが盛りだくさんです。ぜひ遊びにいらしてくださいね♪

<http://philosophicalpractice.jp/information/1022rikkyo/>

INDEX

- | 【お知らせ】(10/26) 自由勉強会『哲学プラクティスの現在～広がりや深まり、次の連続～』
- | 【1】誌上哲学カフェ「ミニさろん」第10回
- | 【2】コラム/エッセイ
 - ◇『親友の彼を好きになってしまっ…～思考実験小編』
 - ◇『「男も女もみんなフェミニストでなきゃ」の向こうへ』
- | 【ご案内】「さろんラボ」企画を募集しています
- | 【3】コトバをハーバリウムする
- | 【4】さろんアーカイブの遊歩道
- | 編集後記

CONTENTS

【おしらせ】

(10/26) 自由勉強会

『哲学プラクティスの現在～広がりや深まり、次の連続～』

通称『ゆるカフェ』。店内改装中のため今月はお休みとなります。

代わりに哲学プラクティス連絡会が行われる今月にあわせて『自由な勉強会』が行われるようです。週末の哲学プラクティス連絡会に参加して感じたこと、考えたことなど、非定型・非線形にざくばらんに話しあいましょう。何度でもしつこく「自分にとって哲学対話（哲学プラクティス）ってなんだろう？」という問いに立ち返りつつ、モヤモヤの輪郭線をくっきりと濃くする時間になればと思います。

10月26日（木）19:15-21:30 オープンです。

例によって例のごとく少人数で集まって、ゆったり考えたり感じたり聴いたりしてみます。

ゆるっと奏でる月イチのセッション、お気軽にいらしてください。

定員6名まで ※最少挙行人数3名

10月26日（木）19:30より

渋谷駅（申込者にご案内）

参加費100円（別途、注文した飲食費実費をお支払いください）

お申込み：salontetsugaku@gmail.com

（幹事：せりざわ）

【1】誌上哲学カフェ

「ミニサロン」第10回

テーマ：『恋は物語？』

いつの時代も、人はLOVE STORYがだいすき。そんな地上の様子をみて、たいくつな空の精たちがおしゃべりを始めました。…ほんとうに、恋は物語？

テーマ：『恋は物語？』

<カゼ>

恋はその本人にとってはいつでも重大事。自分を取り巻く全ての人や物、世界そのものが恋を体験する前とは全く変わって見える程だよね。そんな一大事を経験するとき、人はその重大性に必ず意味を求めてきたんじゃないかな。神の思し召し。または、人は生まれたときから運命の人と赤い糸で結ばれている、等々。なぜか。人は「自分の身に起こる重大事が何の必然性もなく、全くの偶

然であり、人生は何の意味もない」という唯物論的な思考に繋がる孤独感に耐えられる程に精神的に強くないから、必ず各自の心の中で物語を作り上げるのじゃないか。だから、恋は物語であると思うんだ。

<クモ>

人が人を好きになる出来事は運命や神の思し召しのためなわけじゃない。恋と呼んでいるその現象は、生物としての必然的営為でしょ。進化戦略上、有性生殖を選択した生物を起源に進化した種が、彼ら人類で、子孫を残すためには他の個体が不可欠なの。それに、進化の過程で高度に発達した脳が、言語能力や身体能力、思考・共感能力なんかを著しく向上させ、文明そして社会を生み出し発展させてきたわけで。そういうのは、誰か他の人間と出会って、コミュニケーションして、関係を築いて、で、子孫を増やしていくっていう種の繁栄の観点から説明ができるのよ。つまり、恋は物語のような主観的、抽象的な言葉じゃなくて、客観的で具体性のある言葉で論じるもの。だからね、恋は物語ではないのよ。

<アメ>

「恋は物語」という見方に賛成のカゼさんは“唯物論的な思考に繋がる孤独感に耐えられる程に精神的に強くないから”とっていて、クモさんは反対に“恋と呼んでいるその現象は、生物としての必然的営為”だと言っている。どちらも大事な視点を提供してくれているよね。でもちょっと気になるところがあるの。“本人にとってはいつでも重大事”で“だから恋は物語”っていう認識（心の働き）と、“生物としての必然的営為”だから“恋は物語ではない”っていう認識では、主体にズレがあると思わない？ 恋は物語というときには「個としての人間」で、恋は物語じゃないというときには「種としての人間」になってるよね。あ。もしかしたら恋とか物語っていうものは、本当はと一つでも私的で個人的なものなのかもしれない。それに、物語を必要とするのは人間だけっていうのもなんだか不思議ね。

【2】コラム／エッセイ

▽【親友の彼を好きになってしまって…～思考実験小編】

加田零

▽【「男も女もみんなフェミニストでなきゃ」の向こうへ】

セリンジャー

▽【親友の彼を好きになってしまって…～思考実験小編】

加田零

困ったことになった。こともあろうに、この世の中で絶対に好きになっちゃいけない！と誓っていた、一番の親友A美の彼である、B男のことを好きになってしまった。日頃からB男だけは好きになっちゃいけないと理性では何度も確認していたはずなのに。悪いことにB男はA美に内緒で私をデートに誘ってきた。どうやら私に気があるようだ…。

頭の中はずっと同じことを考えてる。好きになっちゃいけない人を好きになってしまった私が悪いのだし、親友の気持ちを優先して彼をきっぱり諦めようか。それとも、彼が本心から私を好きな

ら親友もきっと許してくれるはずだから、彼と付き合っちゃうべきか。

親友に対して抱くこの罪悪感はどこから生まれてくるの。親友との友情を気遣って自分の素直な気持ちに背くことは果たして正しいのかな。好きになっちゃいけない人を前もって決めてその禁止を守るなんて必ずできるのかしら。これらの問いに、みんなはどんなふうに考えるのかなあ。

▽【「男も女もみんなフェミニストでなきゃ」の向こうへ】 セリンジャー

新聞に電子書籍と紙の本のどちらを利用してますかというアンケートが載っていて、投書のなかにこんな意見があった。「1対1で語りかけてくるような文体の作家や、女性の作家は、電子初期で読む方が楽しい」。どうして女性作家の本は電子書籍の方で読むのが楽しいんだろう？女性作家とざっくり一括りにされるような性による明確な差異ってあるんだろうか。あるいは、類としての女性作家という存在に対してなにか固定的なイメージがあるんだろうか。そんなことをおもったりする。なかでもとびきり不思議なのは、たとえば一葉と宇野千代と野上弥生子と向田邦子を読みながら、その作品たちが読者の中でほんとに同じ箱に入るんだろうかっていうこと。それって、きゃりーぱみゅぱみゅと中島みゆきが、パティ・スミスと清水ミチコが、宇多田ヒカルと椎名林檎とマリア・カラスと藤圭子が同じ棚に並んでるレコード屋みたいだ（もちろんそういう癖のあるセレクトが好きな客もいるだろうけど）。でも、それぞれ異なる個としてではなく、類としてステレオタイプな判断をしてしまう瞬間が、気を付けているつもりでもある。それだけ根深くむずかしい問題なんだとおもう。

マリア・グラツィア・キウリが伝統と格式が支配するメゾンの世界で、Christian Dior 初の女性クリエイティブ・ディレクターとして就任して一年が経った。この間にキウリが Dior を通して発信してきたメッセージはとても新鮮で、力強く、でもちょっとまちがえると「それっていつの時代のハナシよ？」と言われかねないものだった。デビューである 2017 年春夏コレクションでは「WE SHOULD ALL BE FEMINISTS」というメッセージがプリントされた T シャツを発表。これはナイジェリア出身の作家、チママンダ・ンゴズィ・アディーチェが書いたフェミニズムについてのエッセイのタイトルで、ショーの後は文学畑でも話題になった。そして最新の 2018SS コレクションでは、「Why Have There Been No Great Women Artists？」と書かれた新しいメッセージ T シャツがランウェイの先頭を飾った。こちらはフェミニストの視点を持つことで知られる女性美術史家、リンダ・ノックリン氏が 1971 年に発表した論文から引用された。こういうスローガンに共感するひとたちを集めたり連帯を促すことは、たとえば「あいつらは右だ（左だ）」とレッテル貼りや名づきの暴力で、類としての集団を仮想させかつ敵対するものとして排除しかねない危険もある。それでもなぜキウリはリスクを冒しながら Dior という場所から、政治的ともいえるメッセージを発信し続けるのだろう——。あなたはなぜだとおもいますか？

本業は作家だけどフレッシュのコピー（エッセイ）を書いたり、化粧品やファッション関係の雑誌にもずいぶん登場するくらいファッション性の高い川上未映子が、こういう世界的なムードに敏感に反応したのはやっぱりさすがだなとおもう。じぶん期待されている使命を暗黙の裡にこなしているというか、『早稲田文学増刊 女性号』は川上が責任編集した特別号になっていて、現在だけで

なく過去の女性作家も、国内に限らず海外の女性作家の作品もセレクトした、文字通り“世界文学としての女性作家号”という趣きになっている。川上は巻頭言でこんな風書いている。〈女性とは何なのか。誰のことを指し、またどのような認識や条件によってそれが可能なのか。仮に女性というものに定義を与えることができたとして、そのうえで女性をテーマにすることにどのような意義があるのか。性別二分法を容認し、より閉塞感を強めることになるのではないのか。現在取り組むべきは女性に限定したものではなく人権全般について、あるいは性の多様性と可能性についてではないのか。女性が女性について語るのには退行ではないのか。問題はいつでも「人間」ではないのか。／しかし、それでもなお、女性というものは存在しています。女性一般というものがなく、また、それがどのような文脈で語られるにせよ、女性は存在しています〉と。そして続けてこう綴っている。キウリが、アディーチェが、ノックリンがそうであるように、川上もまたじぶん自身を奮い立たせ、世の女性たちを励ますように――。〈どうせそんなものだろう〉、そう言ってあなたに蓋をしようとする人たちに、そして「まだそんなことを言っているのか」と笑いながら、あなたから背を向ける人たちに、どうか「これは一度きりのわたしの人生の、ほんとうの問題なのだ」と表明する勇気を。それが本当のところはいったいなんであるのかがついぞわからない仕組みになっている一度きりの「生」や「死」とおなじように、まだ誰にも知られていない「女性」があるはず。まだ語られていない「女性」があるはず。そして、言葉や物語が掬ってこなかった／こられなかった、声を発することもできずに生きている／生きてきた「女性」がいる。そしてそれらは同時に、「語られることのなかった、女性以外のものやできごと」を照らします。

キウリはデザイナー就任と同時に「DIO (R) EVOLUTION」というメッセージを打ち出してきたし、田辺聖子はかつて「私は革命家になったのである。革命は男だけがやるものじゃないのだ。そして社会体制を革命するだけが革命じゃないのだ。男の社会革命家と女の人生革命家のちがいは、男は赤眼を吊って、しゃかりきになるが、女は、「ニヤリ」と笑って革命するのである。」(田辺聖子「苺をつぶしながら」1981)とも書いていた。ここに名前が出てきたそれぞれが声を挙げているので、どこで誰が聴いているかわからないけど、ここでじぶんも言うておこう。朝さろんは当初から女性作家の作品を男性作家のそれと同じくらいかそれ以上に上げようという企図で選書してきたけれど、ここ一年半ほどはすべて男性作家ばかりになってしまっている現状ですごく忸怩たる気持ちがあった。なので次シーズンはひさしぶりに女性作家による作品を取り上げようとおもう。同時に――ここがいちばん大事な点だが――女性作家“だから”取り上げたのではなくその作品を通じてしか問えないことを探求するために、作品を女性(作家)を考える道具にすることなく、女性一般ではなく常に個別具体的な存在としての女性と向き合うために、読んでいきたいとおもう。それにたぶん、そうした態度だけが、(女性)に限らずほかのあらゆる事柄に接する際にも応用可能な唯一のあり方だとおもうから。

参考)

・私達は皆フェミニストになるべき | チママンダ・アディチエ | TEDxEusto

<http://www.ted-ja.com/2016/03/we-should-all-be-feminists-chimamanda-ngozi-adichie-at-tedxeuston.html>

・早稲田文学増刊 女性号

<http://www.bungaku.net/wasebun/magazine/index.html#2017women>

【ご案内】

「さろんラボ」ではみなさんのやる気とアイデアを募集しています♪

名称：【さろんラボ】

コーディネーター：【大村】

「さろんラボ」、常設しています。

このさろんラボではみなさんの「やってみたい」を核に、「さろん」を触媒にして、どんな化学変化が起きるかを試みる場所です。さろんラボは当面継続して設けていきます。

さろんの参加者の手で、以下の2つのイベントがうまれました。

【さろんラボ 001】 「あたまの中を散歩するてつがくカフェ」

<http://sanpo-tetsugaku.jimdo.com/>

【さろんラボ 002】 「哲学カフェ Ante-table/アンティテーブル」

<http://ante-table.wix.com/ante-table/>

既存の哲学カフェのカタチに限定せず、みなさんの中で温まっている関心ごとやご興味を添えて、どうぞお気軽に下記までご連絡下さい。みなさんとの新しい化学変化を、スタッフ一同心から楽しみにしています。

▽詳細はこちらまで

salontetsugaku@gmail.com (担当：大村)

【3】

コトバをハーバリウムする #24 (せ)

本のコトバから

唯一正当な反応は共感だった。(略) 私は私自身に失望し、世界に失望していた。
どんなに強い人間も弱いのだ。そう私は思った。
どんなに勇敢な人間にも勇気が欠けている。
どんなに賢い人間も無知なのだ。

——ポール・オースター 『リヴァイアサン』

歌のコトバから

肥大したモンスターの頭を

隠し持った散弾銃で仕留める
今度こそ 躊躇などせずに
その引き金を引きたい

あいつの正体は虚栄心？
失敗を恐れる恐怖心？
持ち上げられ 浮き足立って
膨れ上がった自尊心？

さあ 乱れた呼吸を整え
指先に意識を集めていく

——Mr. Children 『Starting Over』

【4】

さろんアーカイブの遊歩道 #18 (た)

カテゴリ：【さろん哲学 議事録】 第43回

テーマ： 「嘘をつくことは悪か？」

開催日： 2014年3月15日

http://salon-public.com/wp-content/uploads/2017/02/salon_giji_43.pdf

それほど遠くない昔、それほど遠くない国に、嘘つきの皇帝がいました。皇帝はいつでも、頭の上に青いサファイアと赤いルビーと緑のエメラルドが輝く王冠をのせていました。

皇帝はこんなときに嘘をつきます。隣の国の晩餐会に招待されたお妃さまが、とても一国を預かる皇帝の妻とは思えない町娘のようないでたちで現れても、「個性的だね」と言うにとどめます。こんなときも嘘をつきます。皇帝が幼少の頃からずっとお世話をしてくれていた、もう病床から起き上がることのできないばあやの大切に飼っていたカナリアが、開いた窓から逃げてしまったのに、「今日も元気に唄っていたよ」とばあやに伝えます。

皇帝はそんな調子でひとのために嘘をつき続けてきました。ただどころの中では、正直でありたいと願わなかった日はありません。今日こそは正直な自分の気持ちを表わそうとすると、頭上の冠の中から必ずといっていいほどあの声が聴こえるのです。その場にふさわしい嘘を先まわりして教えてくれるおとぼの小人の声です。そしておとぼの小人はこうもささやくのです。「いつでも勝つことになっている。誰とでも楽々と渡り合える」

確かに皇帝のつく嘘は、出会うひとを傷つけません。付き合うひとを幸せな気持ちにします。だから戦争は起きていないし、民の生活はうるおっているし、天災もおそってきません。おとぼの小人の言う通りの嘘について、困ったことになったことは今までにありませんでした。そしてそれは皇帝をおおいに満足させます。おとぼの小人は悪いものではないのです。

それなのに、皇帝の嘘は皇帝自身を幸せな気持ちにはさせませんでした。日に日に皇帝のころは苦しくなっていくのです。

皇帝は今日もおとぼの小人に気づかれぬように、そっと自分に問いかけます。「嘘をつくことは

悪か？」と。

編集後記

メールニュース第101号をお届けします。

こんにちはフクロウです。

秋雨前線もおおしく発達して気温が下がり、すごく肌寒くなりましたね。大急ぎで衣替えしたり寝具を冬仕様にしたりコタツを出したり、今宵の晩ご飯を鍋にした方も多いのではないのでしょうか。週明けはさらに冷え込むみたいです、こわいですね。ホウ。

20日(金)はスタッフのミーティングがあり、21日(土)にはさろんの例会が中目黒で、テーマ「ハロウィン」で開催されます。翌22日(日)には哲学プラクティス連絡会でさろんもブースを出したりしますが、それに加えて日曜は衆院選の投票日にもなってますよね。今回の衆院選に対する哲学対話界限からの応答としてこんな催しもあるようです。

▼選挙直前緊急開催！哲学カフェ「選ぶとはということか？」(10/21、京橋)

<http://cafephilo.jp/events/event/cafephilo-731/>

それに加え、選挙の翌週はいよいよハロウィン本番。仮装をして街やテーマパークに繰り出す方もいらっしゃるだろう10月下旬、しっかり防寒して体調をくずさないように気をつけましょう！ホウ。

今号はひさしぶりに誌上哲学対話「ミニさろん」をお送りします。今回で10回目となりました。過去のミニさろんはHP掲載のバックナンバーからご覧いただけます。「次回はこんなお題でやってみて欲しい！」などあればぜひメールでご連絡ください。

日ごと深まりゆく秋の爽りをみなさんお楽しみください。次号ではあるばか学校の最新プログラムもご案内できると思います。

それではまた次号でお会いしましょう。ホウ。

編集: (フクロウ)

さろん | Mail News 2017/10/15

⇒次号 (11月1日発行予定)

さろん Mail News 第101号 / 2017年10月15日発行【読み物号】

編集・発行: さろん

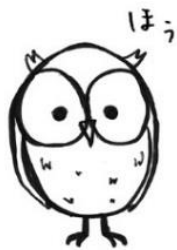
salontetsugaku@gmail.com

<http://salon-public.com/>

<https://twitter.com/salontetsugaku/>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

-
- ◇ 「さろん」にお知らせいただいたお名前・メールアドレスなどの個人情報は、
当会からのご案内のためだけに使用いたします。
また、ご本人の同意なく第三者への提供はいたしません。
 - ◇ 「Mail News」の無断転載はご遠慮ください。 転載ご希望の場合はご連絡願います。
バックナンバーはHP からご覧いただけます。
 - ◇ 【Twitter】 <https://twitter.com/salontetsugaku>
 - ◇ 【Facebook】 <https://www.facebook.com/salontetsugaku/>
 - ◇ 【ホームページ】 <http://salon-public.com/>
 - 「さろん哲学」 Web サイト <http://salon-public.com/tetsugaku/>
 - 「朝さろん」 Web サイト <http://salon-public.com/asa/>
 - 「さろん工房」 Web サイト <http://salon-public.com/koubou/>
 - 「あるばか学校」 blog <http://alpacagakkou.blog.fc2.com/>



"copyright (c) 2011-2017 さろん. All rights reserved."
